



取扱説明書

オイルドレン（廃油受け）

OD-700 APN ITEM No.881138



⚠ 警告

安全のため、本製品のご使用前には必ずこの取扱説明書を熟読し、記載されている重要警告事項をよく理解してください。
また、本取扱説明書をいつでも使用できるよう大切に保管してください。

YAMADA CORPORATION

- はじめに

本書は、お使いになる本製品が故障なく十分に皆様のお役に立ちますことを念願として、正しい使用方法とご使用上の注意について説明したものです。この説明書を読む前に本製品の操作を行わないでください。特に、注意事項を熟読されると共に、常に手元においてご活用ください。なお、ご使用中に不明な点、不具合などありましたら、お買い上げの販売店、または裏面記載のお問い合わせ先へご連絡ください。

- 使用目的

本製品は、車両からの廃油を収納し、集中処理をするオールドレン（廃油受け）です。普通自動車の整備を目的として、コンパクトにデザインされています。

エア駆動式ポンプを内蔵していますので、タンクに溜まった廃油の排出が簡単に行えます。

- 警告・注意事項

本製品を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本書では、警告・注意事項を絵によって表示しています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき操作を行なう方や周囲にいる方々に加えられる恐れのある人身事故や、周囲にある物品への損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容を良くご理解いただくようによくお読みください。



警告

： この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。



注意

： この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、及び物的損害が発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容を示すために、上記の表示とともに以下の絵表示を使用しています。










この表示は、してはいけない行為（禁止事項）であることをあらわしています。表示の脇には具体的な禁止内容が示されています。







この表示は、必ずしたがっていただく内容であることをあらわしています。表示の脇には具体的な指示内容が示されています。

- 使用上の注意

下記の警告・注意事項は大変重要ですので、必ず守ってください。

 警告	
	- 作業中、保守要員の方は、本製品の操作、または保守を行う前に取扱説明書をよく読んで、完全に理解できるまでは作業を行わないでください。
	- 作業場所及び本製品の保管場所は火気から隔離してください。火種が本製品内の廃油に引火した場合、火災が発生し大変危険です。
	- 本製品は操作の性質上高温の廃油を取扱うことがあります。必要に応じて保護メガネや手袋を着用し、ヤケドを負わない様にしてください。
	- 作業中及び作業終了後は、本製品が不意に移動しないように、必ずキャスターのストッパーをロックしてください。また、傾斜地など不安定な場所での使用または放置をしないでください。キャスターをロックしなかった場合、本製品が勝手に移動することで物損事故や施設汚染などが発生する恐れがあります。このような二次災害に関しては使用者側の責任となります。
	- 廃油の排出を行う際、指定箇所からアースを設置してください。アースを設置しない状態で本製品を運転しますと、摺動部に静電気が発生する可能性があります。設置場所の環境（雰囲気や周囲の設置物等）によっては、火災や感電の原因となります。
	- 取扱う材料は地面などに直接排出しないでください。有害物質などの処分は材料メーカーの取扱注意事項（SDS など）や適用される法規に従ってください。また、本製品を廃棄する場合も、本製品内に残った材料を除去したうえで、法規に従って処分してください。（公認の産業廃棄物処理業者にお問い合わせください。）

 注意	
	- エンジンオイル以外の廃油回収に使用しないでください。その他のオイルの使用に関しては、お買い上げの販売店、または裏面記載のお問い合わせ先へご連絡ください。ただし、ゴムなどを腐食するような材料は使用できません。（例：ブレーキフルード、ガソリン、シンナーなど）
	- 廃油受け高さの調整の際、指などを挟まれますと思わぬケガをします。十分に注意して作業をしてください。
	- 廃油受けの許容荷重は 10kg、オイルエレメント置き場の許容荷重は 20kg、フックの許容荷重は 5kg です。許容荷重を超える荷重はかけないでください。

<NOTE>

- ・作業中、レベルゲージが一番上まで来たら油槽内の廃油が満杯です。直ちに作業を中止し、廃油の処理を行ってください。

目次

-	はじめに	
-	使用目的	
-	警告・注意事項	
-	使用上の注意	
-	目次	
1.	各部の名称	
1.1	各部の名称	1
1.2	梱包内容	1
2.	使用前の準備	1
3.	使用方法	2
4.	保守・点検	4
4.1	保守	5
4.2	故障の点検とその対策	5
4.3	分解・組立	6
5.	部品分解図・パーツリスト	
5.1	881138 OD-700APN	7
5.2	853481 DR-50A1	8
6.	仕様	8
7.	製品保証登録シート	9
8.	保証規定	10

1. 各部の名称

1.1 各部の名称



1.2 梱包内容

本製品は、段ボールケースに油槽と付属品（付属品リストを参照）を別個に収納してあります。
（廃油受け・フィルターは、油槽の中にポリ袋に包まれて入っています。）
段ボールケースの上部を開梱し、各部の損傷及び付属品の有無を確認してください。

2. 使用前の準備

- 1) 上蓋と油槽を固定している4本のトラス小ネジをネジ戻し、上蓋を取外してください。油槽の中に入っている廃油受けを取出し、再度上蓋を油槽に固定してください。（Fig. 1）
- 2) 廃油受けを廃油パイプに奥まで確実に差し込み、ホースバンドを取付けてください。固定後、フィルターをセットしてください。（Fig. 1）

<NOTE>

- ・廃油受けを廃油パイプに取付ける前に調整ネジを緩めると、廃油パイプが油槽中に落ちてしまうので、必ず先に廃油受けを取付けてください。
- ・日常点検による緩みや抜けの確認をしてください。

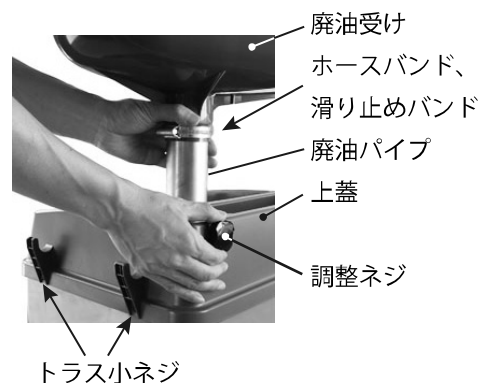


Fig. 1

3. 使用方法

警告



- 取扱う材料は地面などに直接排出しないでください。有害物質などの処分は材料メーカーの取扱注意事項（SDS など）や適用される法規に従ってください。

注意



- エンジンオイル以外の廃油回収に使用しないでください。その他のオイルの使用に関しては、お買い上げの販売店、または裏面記載のお問い合わせ先へご連絡ください。ただし、ゴムなどを腐食するような材料は使用できません。（例：ブレーキフルード、ガソリン、シンナーなど）



- 本製品を移動する場合は、廃油受けを一番下げた状態にし、本体部を持って行ってください。



- 廃油受けの許容荷重は 10kg、オイルエレメント置き場の許容荷重は 20kg、フックの許容荷重は 5kg です。許容荷重を超える荷重はかけないでください。

- 1) リフトアップした車両のドレン穴の下に、本製品を正しくセットしてください。
- 2) 廃油受けの高さを車両に合わせて調整してください。高さの調整は、廃油パイプを固定している調整ネジを緩め、廃油パイプを適正な位置まで伸ばしてから再び調整ネジを締めて固定します。廃油パイプは一段式です。最大 1739mm の高さまで伸ばすことができます。

注意



- 大型自動車の廃油を回収したり、その他の使い方により、一度に大量のオイルを受けると、オイルが溢れたり漏れたりする場合があります。



- 作業時及び保管時の設置においては、傾斜のない場所を選定してください。



- 作業中及び作業終了後所定の場所に移動した後は、不意に動かないように、必ずキャスターのストッパーをロックしてください。（Fig. 2）



- 廃油受けの高さ調整の際、指などを挟まれますと思わぬケガをします。十分に注意して作業してください。



- 廃油回収の際、車両と廃油受けの距離は出来るだけ近くにしてください。飛散した廃油により、ヤケドを負う可能性があります。



Fig. 2

- 3) 作業が終了したら調整ネジを緩め、廃油受けの高さを元の位置まで戻しておいてください。

<廃油の排出方法>

- 4) 作業中、レベルゲージが一番上まで来たら油槽内の廃油が満杯です。直ちに作業を中止し廃油の処理を行ってください。(Fig. 3)

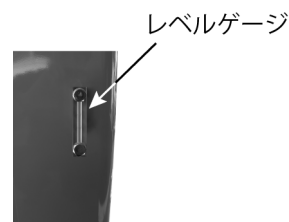


Fig. 3

- 5) 排出口のアダプターに排出ホース（付属品）をカムタイトで接続してください。(Fig. 4)



Fig. 4

- 6) 指定箇所からアースを設置してください。なお、アース線は断面積2.0mm²以上のものを使用してください。(Fig. 5)



Fig. 5

- 7) エアレギュレーターをつまみを一番左（反時計方向）に回した状態で、エアチャック付のエアホースによりエアを供給してください。(Fig. 6)

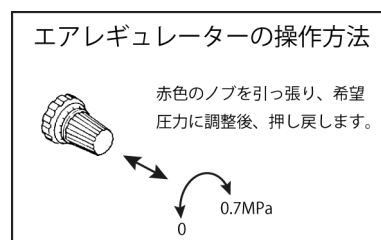


Fig. 6

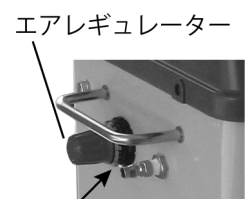
⚠ 注意
<p>! - エアホースを接続する前に、必ずエアレギュレーターをつまみを一番左に回した状態にしてください。ポンプが作動して、不意にオイルが吐出してしまいます。</p>

- 8) エアレギュレーターでのエア圧力調整方法は、つまみを右に回すと加圧され、左に回すと減圧されます。エアレギュレーターをつまみを少しずつ右に回して、エアの圧力を0.7MPa以下の範囲内で調整してください。(Fig. 6, 7)
ポンプが作動し、廃油を排出ホースから排出します。
通常の使用状態では、エアレギュレーターが目盛（白）の3~5（約0.3~0.5MPa）の範囲が適当です。(Fig. 8)



エアレギュレーター
Fig. 7

⚠ 注意
<p>! - ポンプの最高使用エア圧力は0.7MPaです。必ず0.7MPa以下でご使用ください。</p>



目盛
Fig. 8

- 9) 廃油排出後、油槽が空になりますとポンプは空運転します。エアレギュレーターを左に回してポンプを止め、エアホースを取外してください。

⚠ 注意

- ⚠ - ポンプの空運転は、ポンプの寿命に悪影響を及ぼしますので極力避けてください。

- 10) 廃油排出時以外は排出ホースが邪魔になりますので、排出ホースを取外し、適当な場所に保管してください。

<圧送用材料ホースの取付け>

このポンプは主に汲替用に設計されていますが、短い距離ならば配管にて廃油を圧送することもできます。(Fig. 9)

- 11) ポンプ材料吐出口にホース（別売）をカムタイトで取付けてください。
- 12) ホースの先端と配管の間にバルブを取付けてください。
- 13) 配管距離によっては吐出量が異なりますので、ご希望の吐出量になるよう供給エア圧力の調整を行ってください。

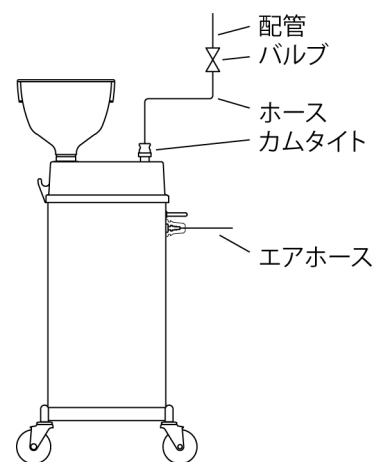


Fig. 9

4. 保守・点検

⚠ 注意

- ⊘ - ガソリンは高揮発性の燃料です。ポンプの洗浄などには絶対に使用しないでください。取扱いによっては引火・爆発の恐れがあります。
- ⊘ - 部品を洗浄の際、アルミ、銅合金、鉄等を腐食するような溶剤は使用しないでください。
- ⚠ - ポンプの分解や点検など修理を行う前には、人身事故を防止するため必ず供給エアを止め、配管内及びポンプの残圧を開放してから行ってください。

4.1 保守

周期	保守・点検の内容
毎日	①各部の漏れ、摩耗や劣化の確認 ②ポンプの作動状況確認 ・ポンプが通常通りに円滑に作動しているか。 ・ポンプ各部やエア・材料配管にエア漏れや材料漏れがないか。 ・ポンプ作動中に異音がないか。 ・摩耗や劣化などがないか。
1週間ごと	③フィルターを取外し清掃 ④ポンプへの給油 ・使用オイル（潤滑油）：タービン油1種（無添加）ISO VG32 ・給油方法 （ルブリケーターを使用していない場合） ポンプのエア供給口の配管を外し、直接潤滑油を数滴（約0.5mL）注油する。（Fig.10） （ルブリケーターを使用している場合） オイルの残量を確認・給油をする。 ※作業はエア供給を遮断して行うこと。
1年ごと	⑤各部の接続箇所への緩み確認 ・ポンプを停止させ、エアの供給を遮断してから、ポンプの外から確認できるネジ部について、手で簡単に回らないことを確認する。
3年ごと	⑥ポンプのオーバーホール ・3年に1回、ポンプのオーバーホールを行う。ただし、ポンプの使用頻度や消耗具合によっては、3年より早めのオーバーホールを推奨する。



Fig.10

4.2 故障の点検とその対策

状況	点検方法	対策
・ポンプが作動しない	・エアが正常に供給されているか ・配管途中にあるバルブが閉まっていないか ↓ （下ポンプを分離し、エアモーターのみで作動させる） → 動けば、下ポンプの故障 → 動かなければ、エアモーターの故障	▶ 圧力チェック （0.3~0.7MPa） ▶ 修理を依頼 ※ ▶ 修理を依頼 ※
・ポンプが止まらない	・油槽内の廃油が空になっていないか ↓ → 下ポンプの故障	▶ エア供給を止める ▶ 修理を依頼 ※
・ポンプは作動するが廃油を圧送しない	・油槽内の廃油が空になっていないか ↓ → 下ポンプの故障	▶ エア供給を止める ▶ 修理を依頼 ※
・ポンプは作動するが圧力・流量が不足	・供給エアが低下していないか ↓ → 下ポンプの故障 （バルブ・シート面の摩耗、ゴミのつまり）	▶ 圧力調整 （0.3~0.7MPa） ▶ 修理を依頼 ※

※お買い上げの販売店、または裏面記載のお問い合わせ先へご連絡ください。

4.3 分解・組立

ポンプの作動が不良・停止の状態になった場合には、不用意にポンプを分解せず [4.2 故障の点検とその対策] の項を参照して、その状況をよく判断し必要以外の場所まで分解しないでください。

エアモーターは、直接材料に触れることがなく故障は極めて少なく、分解の必要はありません。
万一、分解の必要が生じた場合は、お買い上げの販売店、または裏面記載のお問い合わせ先へご連絡ください。

[エアモーターと下ポンプの分離]

- 1) エアチャックを外し、エア供給を止めてください。
- 2) ポンプのエア供給口エルボに付いているスリーブを押しながらエアチューブを外してください。(Fig.11)
- 3) ボルト4本を外し、ポンプを固定しているブラケットを外してください。
- 4) ポンプを引き出してください。
- 5) ポンプ内の廃油を抜いてください。フートバルブ部をドライバー等で中へ押し開くことにより、廃油を抜くことができます。(Fig.12)
- 6) ポンプのエアモーターボディ部をバイスに固定してください。(Fig.13)

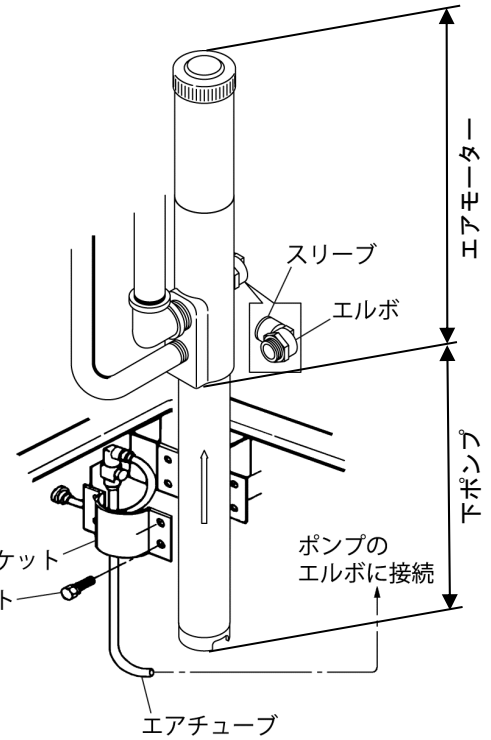


Fig.11

<NOTE>

・エアシリンダーは、キズがつきやすいので必ず本体部を固定してください。

- 7) サクションチューブのローレット部分にパイプレンチを掛けてねじ戻し、ボディより外してください。
- 8) ブラッジャー部のOリングを外し、ピンを抜き取り、ロッドを引抜いてください。(Fig.13)

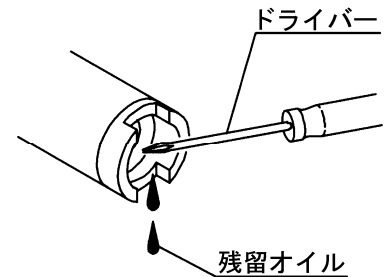


Fig.12

[下ポンプの分解・点検]

- 9) サクションチューブよりロッド、ピストンバルブを抜き出してください。
- 10) ロッドをバイスに固定し、ナットをねじ戻し、バルブ本体、バルブシートを取外してください。(Fig.14)
- 11) バルブ本体に挿入されているSKYパッキンのリップ部を目視にて点検し、摩耗・傷などがあれば交換してください。(Fig.14)
(交換する場合、SKYパッキンはリップの開いた端の部分が上向きです。)
- 12) バルブ本体とバルブシートの当たり具合を点検し、不具合があれば交換してください。

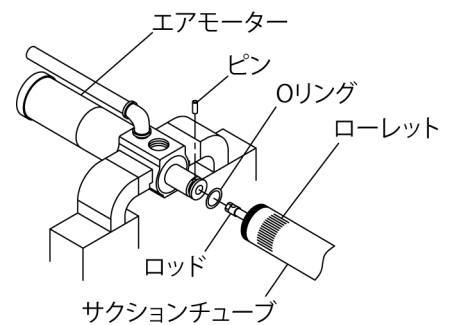


Fig.13

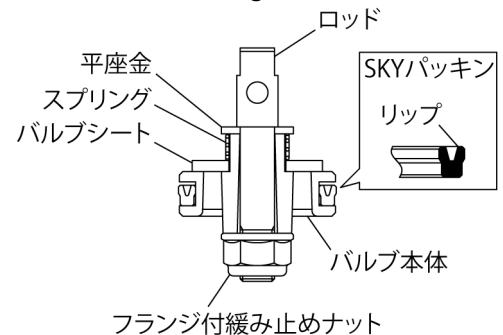
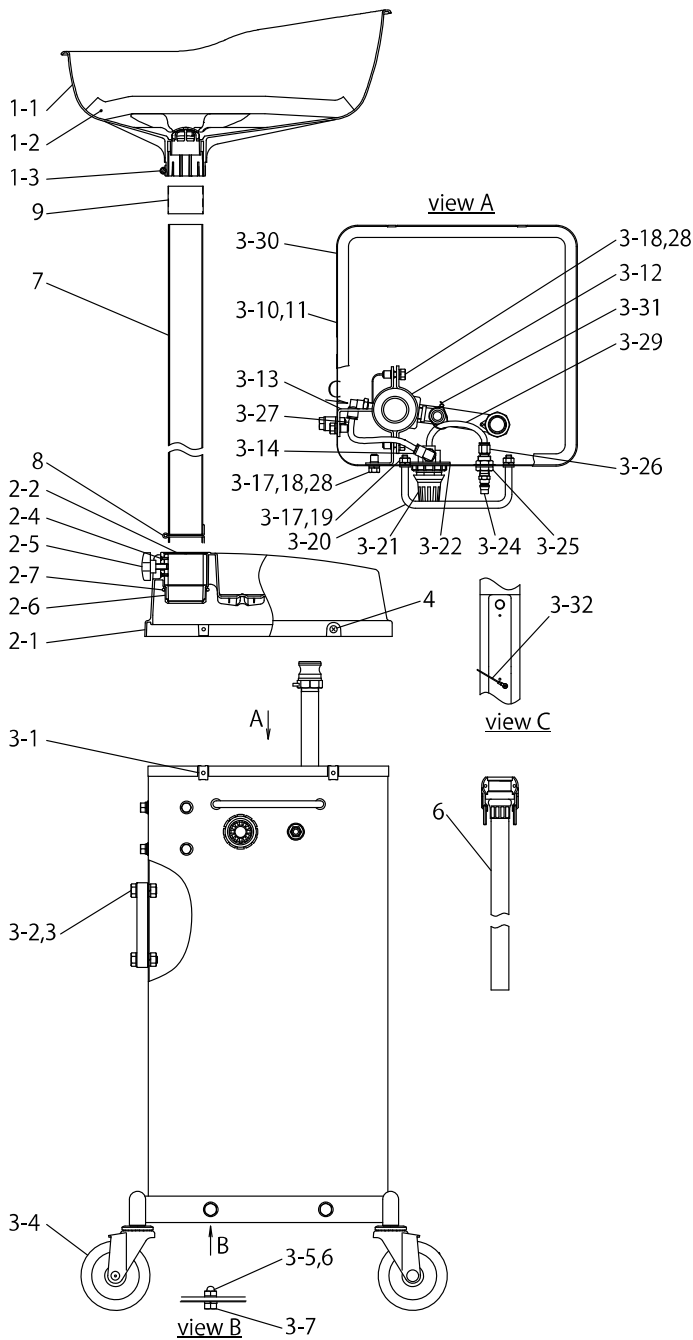


Fig.14

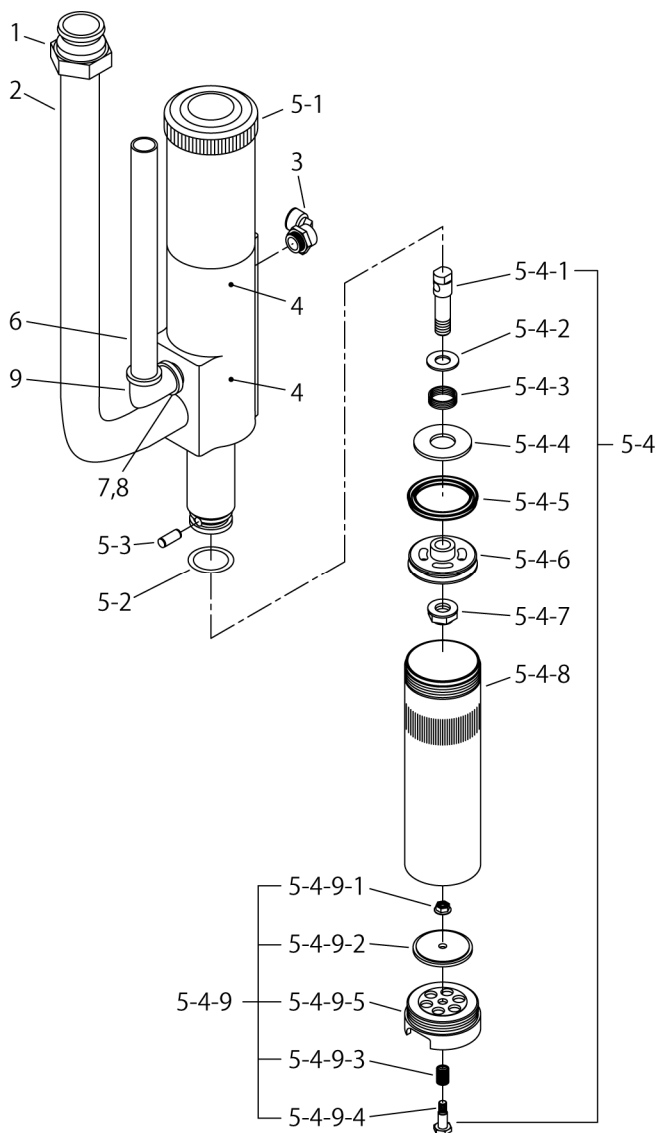
5. 部品分解図・パーツリスト

5.1 881138 OD-700APN



No.	部品番号	部品名称	員数
1-1	773217	油受け	1
1-2	773220	フィルター	1
1-3	684205	ホースバンド	1
2-1	773218	カバー	1
2-2	716726	パイプ押さえ	1
2-4	602704	皿小ネジ	2
2-5	833065	ノブ組立	1
2-6	771328	ダストシール	1
2-7	710581	押さえバンド	1
3-1	682919	スピードナット	4
3-2	683139	油面計	1
3-3	682337	バネ座付ナット	2
3-4	805028	台車組立	1
3-5	630264	袋ナット	4
3-6	631210	平座金	4
3-7	682033	バネ座付六角ボルト	4
3-10	853481	ポンプ組立	1
3-11	771753	クッション	1
3-12	712058	ブラケット	1
3-13	831803	ブラケット組立	1
3-14	682799	エルボフィッティング	2
3-17	631209	平座金	8
3-18	631420	バネ座金	8
3-19	682336	バネ座付ナット	2
3-20	712059	取っ手	1
3-21	682878	減圧弁	1
3-22	712060	当て板	1
3-24	680743	口金	1
3-25	681318	パネルユニオン	1
3-26	682802	フィッティング	2
3-27	570068	チューブ	1
3-28	611149	ボルト	8
3-29	570068	チューブ	1
3-30	833062	油槽組立	1
3-31	685658	結束バンド	1
3-32	686603	アース線	1
4	682882	平座付トラス小ネジ	4
6	695869	ホース	1
7	713081	パイプ	1
8	632073	割ピン	1
9	773263	滑り止めバンド	1

5.2 853481 DR-50A1



No.	部品番号	部品名称	員数
1	686061	カムタイトA 3/4	1
2	714197	パイプ	1
3	682799	メイルエルボ	1
4	681241	パーカー鍼	2
5-1	803955	エアモーター	1
5-2	640021	Oリング	1
5-3	632581	ピン	1
5-4	803956	下ポンプ組立	1
5-4-1	712925	ロッド	1
5-4-2	631210	平座金	1
5-4-3	712918	スプリング	1
5-4-4	712919	バルブシート	1
5-4-5	684081	SKYパッキン	1
5-4-6	712920	バルブ本体	1
5-4-7	683270	フランジ付緩み止めナット	1
5-4-8	714195	サクシオンチューブ	1
5-4-9	803484	フートバルブ組立	1
5-4-9-1	683502	フランジ付緩み止めナット	1
5-4-9-2	705457	フートバルブ	1
5-4-9-3	703219	スプリング	1
5-4-9-4	712921	ボルト	1
5-4-9-5	712924	アダプター	1
6	714196	排気パイプ	1
7	684725	Oリング	1
8	714194	アダプター	1
9	634002	エルボ	1

6. 仕様

製品番号	型式	油槽容量	外観寸法	質量
881138	OD-700APN	最大55L	全高:1128mm (最大:1739mm) 全幅: 499mm 奥行: 559mm	約21.5kg

ポンプ	型式	吐出量	供給エア圧力
853481	DR-50A1	52L/min (無負荷時)	0.3~0.7MPa

使用条件 使用油: モーリナ S1 BJ

気 温: 20°C

液 温: 20°C

7. 製品保証登録シート

- ・お手数ですが、弊社 HP <https://www.yamadacorp.co.jp> からご登録または下記のシートをコピーして必要事項をご記入の上、下記弊社宛てにご送信ください。(フリガナ指定の項目は、必ずご記入ください。)

製品保証登録シート																														
フリガナ 貴社名 _____	フリガナ ご担当者名 _____																													
郵便番号 _____	ご所属 _____																													
フリガナ ご住所 _____ _____	ご連絡先 T e l . () _____ - _____ F a x . () _____ - _____ Eメールアドレス _____																													
<p>■貴社の業種を下記より選んで○で囲んでください。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガソリンスタンド</td> <td>2. 自動車整備業</td> <td>3. 自動車部品製造</td> </tr> <tr> <td>4. 車両・造船業</td> <td>5. 製鉄業</td> <td>6. 機械加工業</td> </tr> <tr> <td>7. 機械製造業</td> <td>8. 電気機械器具製造</td> <td>9. 半導体製造業</td> </tr> <tr> <td>10. 化学・プラント</td> <td>11. 建築・土木</td> <td>12. 塗料・インキ製造業</td> </tr> <tr> <td>13. 薬品・樹脂</td> <td>14. 食品製造業</td> <td>15. 塗装業</td> </tr> <tr> <td>16. 鉄道・バス・運輸業</td> <td>17. 窯業・陶器製造</td> <td>18. 印刷産業</td> </tr> <tr> <td>19. 鋳造業</td> <td>20. 石油産業</td> <td>21. 電気部品製造</td> </tr> <tr> <td>22. 軽金属・非鉄</td> <td>23. 織物・家具</td> <td>24. パルプ</td> </tr> <tr> <td colspan="3">25. その他 (詳しくご記入ください。 _____)</td> </tr> </table>				1. ガソリンスタンド	2. 自動車整備業	3. 自動車部品製造	4. 車両・造船業	5. 製鉄業	6. 機械加工業	7. 機械製造業	8. 電気機械器具製造	9. 半導体製造業	10. 化学・プラント	11. 建築・土木	12. 塗料・インキ製造業	13. 薬品・樹脂	14. 食品製造業	15. 塗装業	16. 鉄道・バス・運輸業	17. 窯業・陶器製造	18. 印刷産業	19. 鋳造業	20. 石油産業	21. 電気部品製造	22. 軽金属・非鉄	23. 織物・家具	24. パルプ	25. その他 (詳しくご記入ください。 _____)		
1. ガソリンスタンド	2. 自動車整備業	3. 自動車部品製造																												
4. 車両・造船業	5. 製鉄業	6. 機械加工業																												
7. 機械製造業	8. 電気機械器具製造	9. 半導体製造業																												
10. 化学・プラント	11. 建築・土木	12. 塗料・インキ製造業																												
13. 薬品・樹脂	14. 食品製造業	15. 塗装業																												
16. 鉄道・バス・運輸業	17. 窯業・陶器製造	18. 印刷産業																												
19. 鋳造業	20. 石油産業	21. 電気部品製造																												
22. 軽金属・非鉄	23. 織物・家具	24. パルプ																												
25. その他 (詳しくご記入ください。 _____)																														
ご購入年月日	_____ 年 _____ 月 _____ 日	主なご用途																												
ご購入販売店		製品名 (型式)																												
		製品番号																												
		SERIAL No.																												

※個人情報は当社の個人情報方針に基づき適切な安全対策のもと管理し、お客様の同意なく第三者へ開示、提供いたしません。

宛先
株式会社 ヤマダコーポレーション
営業本部
TEL.03-3777-4101
FAX.03-3777-3328

8. 保証規定

本製品は、厳重な検査に合格した後、皆様のお手元にお届けしております。取扱説明書、本体注意ラベルなどの注意書に従って正常なご使用をされたにも拘わらず保証期間内に万一、弊社の責任に基づく故障が起きました場合には、納入日より12か月を保証期間として、当該品を無償にて欠陥部品の手直し、修理、または新品と交換させていただきます。

ただし、二次的に発生する損失の補償及び次の場合に該当する故障についての保証は対象外とさせていただきます。

1.保証期間：製品を納入申し上げた日より起算して12か月間といたします。

2.保証内容：保証期間中に、本製品を構成する純正部品の材料、もしくは製造上の欠陥が表われ、弊社がこれを認めた場合、修復費用は全額負担いたします。

3.適用除外：保証期間中であっても、下記の場合には適用いたしません。

- (1) 純正部品以外の部品を使用された場合に発生した故障。
- (2) 使用・取扱上の過失による故障、保管・保安上の手入れ不十分が原因による故障。
- (3) 製品の構成部品を腐食・膨潤、または溶解する様な液剤を使用して生じた故障。
- (4) 弊社、または弊社の販売店・指定サービス店以外の手によって分解修理がなされた場合。
- (5) 製品に弊社以外の手によって改造・変更が加えられ、これが原因で発生した故障。
- (6) パッキン、Oリング、ホースなどの消耗部品の摩耗。
- (7) 指定外の電源(電圧)で使用された事により発生した故障及び損傷。
- (8) お買上後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷。
- (9) 火災、地震、水害、及びその他天災、地変などの不可抗力による故障及び損傷。
- (10) 不純物や過度のドレンが混入した圧縮エアを動力として使用したり、指定の圧縮エア以外の気体・液体を動力として使用したりした場合に発生した故障。
- (11) 過度に摩耗性を有する材料や、本製品に不適当な油脂を使用された場合の故障。
- (12) 日本国外においてご使用の場合。

尚、本製品及びその付属品に使用されているゴム部品等、あらゆる自然損耗する部品、消耗部品ならびに下記部品については、保証の適用から除外させていただきます。

・ホース類 ・各種パッキン類 ・コード類

4.補修部品：補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後5年とさせていただきます。製造打ち切り後5年を経過したものにつきましては、供給いたしかねる場合もございますので、何卒ご了承ください。

株式会社ヤマダコーポレーション

本社・営業本部 〒143-8504 東京都大田区南馬込1丁目1番3号
ホームページ <https://www.yamadacorp.co.jp>
E-mail sales@yamadacorp.co.jp



札幌営業所 東京営業所 大阪営業所 福岡営業所
仙台営業所 名古屋営業所 広島営業所 相模原工場

製品お問合せはこちらへ ☎0120-518-055

202102.2528 AUT076U